

北海道伊達市の先進事例「重度・高齢障がい者対応グループホーム」の実践に学ぶ

特定非営利活動法人 障がい者より良い暮らしネット

〒810-0062 福岡市中央区荒戸 3-3-39 福岡市市民福祉プラザ 4階

助成事業の概要

■平成 31 年 7 月 21 日

■福岡市市民福祉プラザホール

■重度障がい者の地域の暮らし実現フォーラム

■基調講演：伊達コスモス 21 常務理事・統括事業管理者 大垣勲男氏

重度重複障がいのある人たちの地域生活支援にかかわることの本質的な意味や、運営手法などについて学ぶ良い機会であった。

■シンポジウム：福岡市保健福祉局障がい者部障がい企画課長 吉田命氏

福岡市議会 副議長 楠 正信 氏

社会福祉法人あきの会 理事長 中村 佳奈 氏

NPO法人ライフケアサポート協会 統括施設長 坪井 健 氏

特定非営利活動法人障がい者より良い暮らしネット 理事長 服部 美江子

コーディネーター 福岡県肢体不自由児者福祉連合会副会長 末松 忠弘 氏

現状報告やあるべき姿・求める姿などについて議論を深めた。

開会に際し 福岡市議会・稲員稔夫教育子ども委員会委員長と大坪真由美福祉都市委員会委員長からご挨拶をいただき、閉会の折には福岡市市議会議員の浜崎太郎、池田良子、尾花康広、勝山信吾の各氏から応援のエールをいただいた。

事業の成果

福岡市には重度重複障がい者対応のグループホームは無く、さらに障がい者の高齢化にともない重度化が進む状況であり、重度障がい者のグループホームの開設は喫緊の課題です。

北海道の（社福）伊達コスモス 21 では平成 15 年に通所授産施設開所を皮切りに、各種障がい福祉サービスを行う中、グループホーム 10 か所、サテライト 2 か所を運営、重度重複障がいや高齢知的障がい、強度行動障がいの人もグループホームに受け入れ、障がいの重い人の地域の暮らしを実践しています。

その伊達コスモス 21 の取り組みや運営手法を学び、福岡市でのグループホーム整備の足掛としたいとの思いで企画しました。

現在、重度重複障がい者のグループホームが運営がされているのは北海道伊達市、横浜市など国内では限られており、それが可能なのは自治体独自の補助金制度、居宅介護サービスの必要度に応じた個人単位での支給決定、などによります。

福岡市の行政・事業者・家族等が一堂に会してそれらのことを学び、情報共有し、重度・高齢化している障がい者の実態、必要な支援（お金、ハード、マンパワーなど）について大いに学ぶことができました。

今回のフォーラムは、当事者団体 6、事業者団体 4 の団体が実行委員として名を連ね、連携して取り組みました。重度障がい者のグループホーム整備が当事者や家族だけでなく、事業者にとっても、

重要、かつ難題と捉えられ、早急に解決すべき課題であるとの認識の一致によるものです。

大垣氏の講演により、重度者グループホームが要件さえ整えば実践できる事実を学び、シンポジウムでは各団体が行ったアンケートの結果や療養介護事業所の利用状況などによって具体化されてきたニーズを数字で検証し、強度行動障がいのグループホームを実践している事業者からは、現制度においては障がいの重い人に本当に必要な支援が提供できにくいこと、などが発表されました。これらにより、行政にも現制度での重度者のグループホーム運営が難しいことを理解していただき、ぜひ前向きに検討するとの回答を引き出すことができました。

また参加した市議会議員からは実態や制度を良く学んだうえで、しっかりと取り組んでいくという強い決意を表明していただくことができました。

果を十分に今後活かしながら、障がいの重い人たちの地域の暮らしの場が実現するために、継続して活動を行っていきます。

■ 成果の広報・公表

当会のホームページ、SNS、おたより等で発信し、目的が達成できるまで活用していきたいと考えています。

講演やシンポジウムで使用したパワーポイント等の資料は、おたよりやホームページ等に掲載し、今後役に立って行く予定です。

遠方からの講師をお招きすることができ、内容の濃い、今、本当に必要な課題に取り組むことができましたことに心から感謝し、機会あるごとに広報に努めていきます。

■ 今後の展開

今回のフォーラムを通して実行委員として集結した10団体が一丸となって、また党派・会派を超えて市議会議員にも参加を呼びかけ、学習会等を続け、行政にも働きかけ、今回のフォーラムの成